

エジプト 次のブドウの季節に向けて新しいDNAラボを準備中

[EUROFRUIT 2024年3月2日](#)

エジプトでは、植物品種育成者の権利の侵害を防ぐために様々な取り組みが行われており、今年の出荷シーズンに間に合うようにブドウのDNAフィンガープリンティングを導入

2024年産のブドウの出荷シーズンから、エジプトの植物検疫中央管理局(CAPQ)は、DNA検査を使用して、違法の疑いのある出荷を特定し、産地で阻止することとしている。

これまでの出荷シーズンには、育成者権者は、違法な貨物を差し押さえるためにヨーロッパの港の税関当局に頼ることを余儀なくされていた。

すべての主要な生食用ブドウ品種育成者を代表する植物品種育成者連盟のダンカン・マッキンタイア会長は最近、農業省で国際農業局とCAPQを監督するサード・ムッサ同省次官及び植物検疫の技術的責任者であるエルサイド・アーメド・アッバース氏と会った。

植物品種育成者連盟は、CAPQによる新しいDNAラボの設置や、ブドウのDNAフィンガープリンティングの詳細に関するスタッフトレーニングの実施を支援してきた。

同連盟はまた、CAPQが輸出品の真正性を迅速に検証するために独自の参照データベースを構築できるよう、すべての会員の保護品種の公式DNAサンプルの提供を手配している。これは、農業・干拓省植物防疫局で登録・保護されているすべての品種に適用されることとなっている。

マッキンタイア会長は、「エジプトは、知的財産権侵害を根絶し、無許可の果実の輸出を防ぐことに真剣に取り組んでいることを証明した。現在、輸出貨物をチェックするための法的枠組みと技術的リソースの両方がそろっており、連盟の会員の知的財産権を侵害した場合の罰則は輸出禁止である」と述べた。

2019年にUPOV91条約に加盟して以来、エジプトは植物品種育成者の権利侵害と戦うための強力な措置を実施してきた。エジプトの農業大臣は2021年に省令第387号を発出し、農場と梱包施設が当局の承認を受け、ブドウを輸出する資格を示すコード番号を取得することを義務付けた。

その後、CAPQは、生食用ブドウの輸出プロセスを規制する指令を発出した。この指令の下では、保護された品種をライセンス無しに扱った生産者や梱包施設は、輸出禁止処分を受け、コード番号が失効するリスクがある。

マッキンタイア会長は、「これらの措置を講じたCAPQのムッサ次官とそのチームを祝福する。当連盟の会員は、エジプトのブドウ産業の利益のために、優れた性質を持つ生食用ブドウ新品種に自信を持って投資を続けることができる」と述べた。

執筆者 トム・ジョイス